

① 研究主題

「人と関わる力や思考力・活用力を高めて学力向上を図る
～直接交流や国内外の遠隔地交流を取り入れて～」

② 主題設定の理由

本校は、校舎一体型小中一貫校として平成20年に開校し、校務分掌や校時限等の工夫・改善を図り、学校運営を円滑に行いながら、小学校から中学校の9学年を4（前期）・3（中期）・2（後期）の3ブロックに分け、小中一貫教育の研究を進めてきた。学校教育目標を、「感謝・絆・全力～小中一貫教育と各種交流活動によって自立に向かう児童生徒の育成～」とし、その達成のために、「学びを鍛え、心を鍛え、人間を鍛える」ことで、「生きる力」を培い自立に向かう児童生徒を育むことを目指している。

また、小規模校及び準へき地校であることから人と関わる力に課題がある。児童生徒一人一人は真面目で規律正しい。しかし、小規模校ゆえに人間関係が固定化し、人間関係構築力を十分に身に付けぬまま9年間を過ごす可能性がある。

そこで、平成26年度より次の手だてをとって研究を進めてきた。

(1) 交流活動におけるコミュニケーションを通して活用力の育成を図る。

①直接的な交流学习の機会を増やす。

②オーストラリアのLismore校や唐津市の小川小中学校との交流経験を生かして、遠隔地交流実施による交流学习の場を国内外に広げた。平成27年度からは、オーストラリアのシェパトン校とも交流することができた。

(2) 授業において言語活動を充実させ、論理的思考力の育成を図る。

①「北山校授業モデル」を意識した授業実践

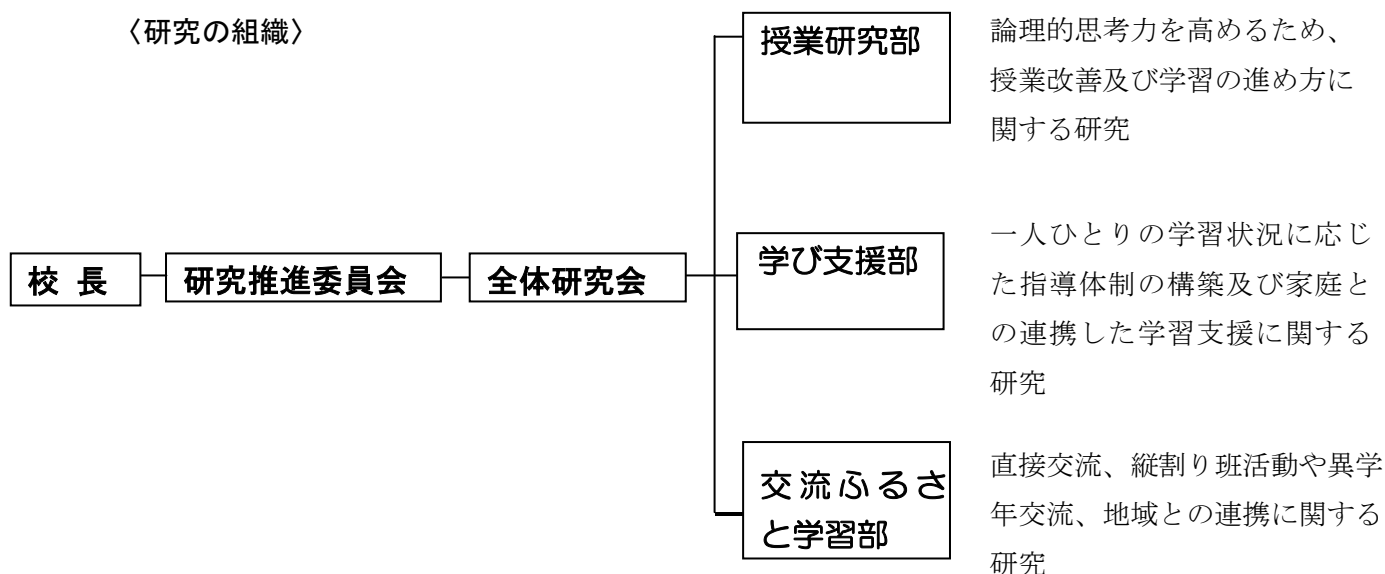
②思考力の6項目（比較、順序、類別、理由付け、定義付け、推理）に着目した論理的思考力の育成。

研究の成果としては、直接交流や国内外の遠隔地交流の回数が増えたことは「プレゼンする（伝える）」、「質問する」、相手からの「質問に答える」という場面も増え、児童生徒の表現力の高まりにつながった。論理的思考力の育成に関しては、思考力の6項目を意識した発問を工夫したことや思考ツールを活用したことで、児童生徒が筋道立てて説明する力が身に付いてきた。

平成28年度も継続研究で、直接交流や国内外の遠隔地交流を充実させることにより、より双方向的なインタラクティブな授業展開が期待できる。また、そのような体験を通して、人間関係構築力が高まる。それとともに、思考要素の活用を通して深まりつつある思考力とともに、判断力・表現力がより高まり、基礎的基本的知識・技能を活用する力の向上の図ることができるであろう。そのことが学力の向上につながると期待し上記主題を設定した。

③ 研究の組織及び計画

〈研究の組織〉



〈研究計画〉

◎概要（研究の内容・方法等）

研究の内容	研究の方法	目指す姿
言語活動を充実させ、論理的思考力を高める	思考要素やキーワードを活用した授業展開により児童生徒の説明力を高め、教師の課題提示・発問力を高める	自分の考えを伝え合い、深め合う児童生徒
直接交流学习をコミュニケーション能力の育成に生かす	大規模校や小規模校、特別支援学校との交流学习を通して、人との接し方を身に付けさせる	自分から話しかけ、友だちをつくらうとする児童生徒
国内外の遠隔地交流学习をコミュニケーション能力の育成に生かす	国内外の遠隔地交流を通して、よりインタラクティブな授業展開モデルを開発する	プレゼン力、質問力、応答力など基礎的・基本的知識・技能を活用する力を身に付けた児童生徒
学習の手引きの見直しを図り、家庭学習習慣の確立を目指す	個人カルテを充実させ、学習の手引きに記載した家庭学習時間のめやすや自学ノート活用の具体例を手がかりに自らテーマを決めて学習に取り組ませる	主体的に家庭学習に取り組む、自立した学習者としての児童生徒

月	日	項目	内容
4	2	第1回全体研究会	今年度の研究、研究の年間計画
4	13	第1回研究推進委員会	今年度の研究について
4	27	第2回全体研究会・部会	研究部組織と各部の取り組みについて
5	16	第2回研究推進委員会	全体授業研究会・各部の取り組みについて 指導案形式について

6	22	第3回全体研究会	全体授業研究会1回目（3・4年 堤 義典教諭）
7	6	第3回研究推進委員会	夏期休業中の研修計画について
8	3	第4回全体研究会	個人カルテの作成 思考ツールの活用に関する
8	24	第5回全体研究会	
9	28	第6回全体研究会	全体授業研究会2回目（2年 福島 愛美教諭）
10	21	九州地区英語研究大会	
10	27	九州地区へき地小規模校教育研究大会	
11	9	第7回全体研究会	全体授業研究会3回目（7年音楽 浦田 千尋教諭）
1	18	第8回全体研究会	全体授業研究会4回目（7年数学 小林 真澄教諭）
1	31	佐賀市人権・同和教育研究大会	
2	8	第9回全体研究会	今年度のまとめと来年度に向けて・個人カルテ作成

④ 期待される研究の成果

- ア 「北山授業モデル」の見直しを図り、個人思考・集団思考を深め合う言語活動を工夫することで、自分の考えを伝え合う力や深め合う力が高まる。
- イ 大規模校等との直接交流の場を通して人と関わる力が高まる。
- ウ 国内外との遠隔地授業の機会を通してプレゼン力、質問力、応答力、コメント力など、基礎的基本的知識技能を活用する力が高まる。
- エ 学習の手引きや個人カルテ、自学ノートを活用により、家庭学習の充実を図り、主体的に家庭学習に取り組む、自立した学習者としての児童生徒の育成ができる。